

# 道草



9月の道草：初秋・水辺の景

後部左：紅チガヤ〔*Imperata koenigii cylindrica* 'Rubra'〕

イネ科チガヤ属 日本原産

＜分布＞北海道から沖縄。アジア大陸の中西部からアフリカ、オーストラリア分布。北アメリカにも帰化。細い葉を一面に立てた群落を作り、白い穂を出す。地下茎は横に這い、所々から少数の葉をまとめて出す。地上には花茎以外にはほとんど葉だけが出ている状態である。

葉には細くて硬い葉柄があって、その先はやや幅広くなり、広線形。葉はほとんど真っすぐに立ち上がり、高さは30-50cm程になる。葉の裏表の差はあまりない。葉の縁はざらつくがススキほどではない。

葉は冬に枯れるが、温暖地では残ることもある。この時期、葉は先端から赤く染まるのが見られる。

初夏に穂を出す。穂は細長い円柱形で、葉よりも高く伸び上がり、ほぼまっすぐに立つ。

分枝はなく、真っ白の綿毛に包まれていて、よく目立つ。種子はこの綿毛に風を受けて遠くまで飛ぶ。日向の草地にごく普通に見られ、道端や畑にも出現する。

地下にしっかりした匍匐茎があるため、大変強い。河原の土手などでは、一面に繁茂することがある。

後部右及び左下

：アケボノアシ（曙葎）〔*Phalaris arundinacea*〕

イネ科

＜分布＞九州以北の日本各地に分布 水辺や湿地に群生する大型の多年草

アケボノアシは日本各地の湖畔などに生息するクサヨシを観賞用に栽培したもの。

クサヨシは多年草で、地下に根茎があり、長く這う。茎はしっかりと直立し、高さ80-150cm、時には180cmに達する。

茎にはまばらに節があり、節ごとに葉をつける。

長い葉鞘の先の葉身は細長く、粉を吹いたように白っぽく明るい緑色。柔らかいが周囲はざらつく。

5-6月に茎の先端に花序を出す。花序は真っすぐに上に向かい、円錐花序だが側枝は広がらず、一本の束になる。

花時期には枝がやや広がるが、果実時期には元に戻る。ヨシのように枝が広がったり横向きにしだれたりはない。

小穂は先のとがった楕円形で長さ4-5mm、左右から偏平で中には小花を一つだけ含む。

手前左：白鷺カヤツリ〔*Rhynchospora colorata*=*Dichromena colorata*〕

カヤツリグサ科ミカヅキグサ属 北アメリカ南東部原産の多年草

＜分布＞本州から九州。

凍らせなければ根茎だけで越冬する。

水生植物で地下茎がある。水辺や湿地に生育する。丈は60cmくらいまで。

花期は6～10月。茎の先端から垂れる、白い斑の入った葉のように見えるのは葉状苞。

花はその中央にある突起状のもの。名の由来は、白い苞が白鷺のように見るとことに因る。

ウォーターガーデン、ビオトープなどでも利用できる。凍らせなければ根茎だけで越冬する。

手前右

：斑入り姫擬宝珠

〔*Hosta longipes* (Franch. et Savat.) Matsum. var. *gracillima* (F. Maek.) N. Fujita 〕

ユリ科ギボウシ属

＜分布＞日本全土 日本原産

擬宝珠はもともと日本の山野に自生している植物で、暑さ寒さに強く、日本の気候でどこでも良く育ち、病虫害も少なく、半日陰の庭植えに向く。落葉樹の下などが理想的。

夕テモノノ東側の午前中だけ日の当たる所でも良い。

育て易く、植えやすいことから園芸用に普及。

斑入り姫擬宝珠は中でも葉が小型。蕾の形が「擬宝珠」に似ていることから銘々。